

平成28年12月9日

会員の皆様へ

世田谷区立上祖師谷中学校  
P T A 会長 土屋 俊幸  
文化厚生委員長 志村 陽子

### 第3回家庭教育学級 講演会報告レポート

#### 子供のやる気を引き出す探究学習のススメ

去る11月22日(火)、39名の保護者の皆様方にご参加いただき、「子供のやる気を引き出す探究学習のススメ」と題した第3回家庭教育学級講演会を開催いたしました。

講師の宝槻泰伸(ほうつきやすのぶ)先生は「子供のやる気を引き出す探究学習」を探究学舎三鷹校にて実践する傍ら、さまざまな教育現場でその手法を紹介されています。今回の講演では、子供のやる気を引き出すためにあるべき望ましい家庭教育のヒントと、探究学習という学び方が持つ可能性をわかりやすくお話していただきました。

#### <講演内容(抜粋)>

文部科学省の調査によると、現在の中学生の4人に3人は勉強が嫌いと回答しています。つまり、たいていの子供たちの心の中には、ドヨンとした暗い世界が広がっています。子供たちにとって、勉強とは「テストのための勉強」であり、受け身で、しかたなくやっているものだからです。もし、あなたがそういう子供に接するとき、家庭教育を担う最も身近な教師として、どんなことを心がけるべきでしょうか。「一緒に学ぶ」、「じっと見守る」、「何もしない」などいろいろな考え方があげられます。では、子供にとって最高の教師とはどんな教師でしょう。イギリスの教育学者は、それは「子供の心に火をつける」ことができる教師であると述べています。ここで「心に火をつける」とは、子供のやる気を引き出すことができるということです。では、心に火をつける教育とはどんなものでしょう。その一つ



は、「探究学習」と呼ばれる手法で、子供自身が主体的に学ぼうとする課題を見つけ、問題を解決するための活動をどんどん繰り返すようにやる気を引き出すものです。探究学習は、その重要性を増し、2020年の次期学習指導要領の改訂では「理数探究」などの科目に位置付けられるほどです。また、探究学習と共に「アクティブ・ラーニング」もやる気を引き出すためのキーワードで、対話的学びの実現や、学習活動を振り返って次につなげる主体的な

学びの実現などを図る学習手段です。

さて、本題にはいります。親が子供の将来に期待することは何でしょう。大方の意見は、「社会の中で自立する」、「好きなことでチャレンジする」の二つに集約されます。子供にとっては、「好きなことでチャレンジする」ことが実はとても重要です。その実現のために、親として何ができるでしょうか。子供はいろいろな体験を通して、好きなことを発見します。親はそれを育てる手助けをすればいいわけですが、具体的には「さかなクンのお母さん」の子育て法がヒントになります。子供の好き嫌いを理解し、好奇心に徹底的に寄り添い、その成長をサポートする姿勢です。さかなクンのように、子供が自分の好きなことを見つけて、育てるためには一定の期間や準備が必要です。好きなことを見つけ出す過程で本質的に重要なことは、その体験が「わあ、すごい！」という言葉の子供の口から何回引き出せるかということです。子供の心は「畑」であり、そこに「驚きと感動の種」をまくわけです。種は、宇宙、偉人、科学、芸術、歴史、生物、技術などいろいろで、それらの中で何が芽生えて育つかは分かりませんが、育ったものがその畑となります。親は自分の得意分野の種をまく。それ以外の種はその道の名人の力を借りてまくこともできます。種まきをする過程で探究学習が生まれ、体験したことの「振り返り」が生まれ、親にも子供のパートナーとしての役割を果たす時間が生まれます。さらに、探求学習を進める上でとても大切なことは、子供自身が「好きなことを育てるには楽をしてはいけないんだ！」と感ずるとのことです。

最後に探究学習の一例として「カレンダーの不思議」をビデオで紹介します。日常的に誰もが目にしているカレンダーですが、たくさんの知恵が詰まっています。知恵を学ぶことで感動が呼び起され、もっと知りたいと思う心が引き出されるはずです。

#### <質疑応答(抜粋)>

Q1:何か選択しなければならぬときに、子供はいつも楽な方ばかり選んでいるように思います。「俺を信じてくれ」と言う子供とどのように接すればいいですか。

A1:成長を後押しする環境は、むしろその子にとって逆風と思える中にあります。そこで自分から「楽をしてはいけない」と学ぶのを見守ってあげればよいと思います

Q2:反抗期で勉強嫌いな子供に対するアプローチの方法を教えてください。

A2:親の結論を提示するばかりではなく、課題を共有するところから出発するコミュニケーションに切り替えて、カウンセラーのように接するのも選択肢のひとつです。

Q3:毎日、長時間子供と向き合うことは難しいです。短い時間で小中の子供たちに声かけするには、どんなことを話題にしたらよいか、具体例を教えてください。

A3:日々、子供が受け取ってきたものをきっかけとして、その子の心に引っかかったものを、振り返りのパートナーとして聞くという目線で接したらいかがでしょうか。

#### <アンケートより感想(抜粋)>

・現在中3の子供が、進路や将来やりたい事などがなかなか決まらず、親としてハラハラが続いているので、今一度待つことも大事、うまく進める手助けをすることなど、とても考えさせられました。

・子供の「心の動き」もよく見て、向き合っていこうと思いました。

・親のコミュニケーション能力やアンテナが必要だと痛感しました。

・自分の育ってきた時代の教育や価値観と、今の子供たちのそれは大きく変わろうとしていることに気づかされました。

・日々、子供の心に火をつけることに苦労していますが、皆同じような悩みを持っているんだなど、少し安心しました。これからは沢山の種をまき、子供の驚きと感動を引き出せるよう、親も頑張って話題作りしていきたいと思います。

#### <最後に>

平成28年度の家庭教育学級は、6月に世田谷区保健センター指導員の方による運動指導、9月に給食試食会、11月に宝槻泰伸先生の講演会を行いました。多くの方にご参加いただき、本当にありがとうございました。来年度もみなさまのご参加をお待ちしております。